

ラオス
森林保全・復旧計画フェーズ2
運営指導調査団報告書

平成11年7月

国際協力事業団

林開林

JR

99-016

ラ オ ス

森林保全・復旧計画フェーズ2
運営指導調査団報告書

平成11年7月

国際協力事業団

序 文

国際協力事業団は、ラオス人民民主共和国政府からの技術協力要請を受け、平成 10 年 7 月から同国において、森林保全・復旧計画フェーズ 2 を開始しました。

このたび当事業団は、本計画の今後の実行計画を協議・検討するため、平成 11 年 2 月 11 日から 2 月 21 日まで、農林水産省林野庁計画課海外林業協力室海外指導班課長補佐 柴田 晋吾氏を団長とする運営指導調査団を同国に派遣しました。調査団はラオス人民民主共和国の現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、調査結果を本報告書に取りまとめました。

今回の調査・協議の結果が本計画の協力目標達成に役立つとともに、この技術協力事業の実施が、今後の両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待いたします。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成 11 年 7 月

国際協力事業団

理事 亀 若 誠

ヴァンヴィエン (Vangvieng) 郊外に作られた郡苗畑。広さは約 90 m²、生産規模は 10 万本。(5-2 森林管理技術で説明)



ホワイパモン (Houay PaMom) 村の村長宅に造成した村落苗畑。広さは約 15 m²、生産規模は 2 万本(5-2 森林管理技術で説明)



フェーズ 1 期間中に植林した対象地、右の刈り払いは防火帯。家畜の進入を防ぐために柵も設置されている。



ホワイパモン村の小学校における学校林。まだ見えるほどには成長していない。
(5-4 広報活動で説明)



ヴァンキ (VangKhi) 村で準備されて村落苗畑。後ろでは、以前陸稲を栽培していたが、98 年はバナナを植えた焼き畑地となっている。ここは小学校の先生の土地で、先生が率先してアグロフォレストリーの実践を行っているとのことである。



ヴァンキ村の村落苗畑の隣に作られている小さな野菜畑。サラダ菜、葱などが栽培されていた。種子は農業のプロジェクトから提供された。
(5-3 参加型森林保全で説明)



ヴァンキ村の一農家で試行されているアグロフォレストリー。アカシアとパイナップルが混植されている。



アグロフォレストリーの展示・実証林を計画している沢沿いの窪地。現在はバナナを主に植えている。



プロジェクト地域のほとんどの家庭にかまどが無く、薪で料理をしている。燃料効率向上のために竈を試作した。今までの1/3の薪の量で料理が可能となり、早くも評判になっている。(5-3 参加型森林保全で説明)



アセアン経済危機に対する緊急
支援予算で、ヴァンヴィエン郡事
務所を改築した。(9 ページ参照)



工事開始直後の造林センター用
敷地



フェーズ 1 期間中の造林対策費
で造成された作業道。
(7 の 2) 作業道の整備の必要性で
説明)



シビライ (Sivilay) 村で行われている、土地分配 (Land allocation) の実施作業現場。森林官と村人が面談をしながら、私有地の確定を行っている。



土地分配の作業結果は、簡単な図面ではあるが、この写真のようにまとめられ、蓄積されていく。



ヴァンキ村に掲示されている、村の境界と簡単な土地利用図。



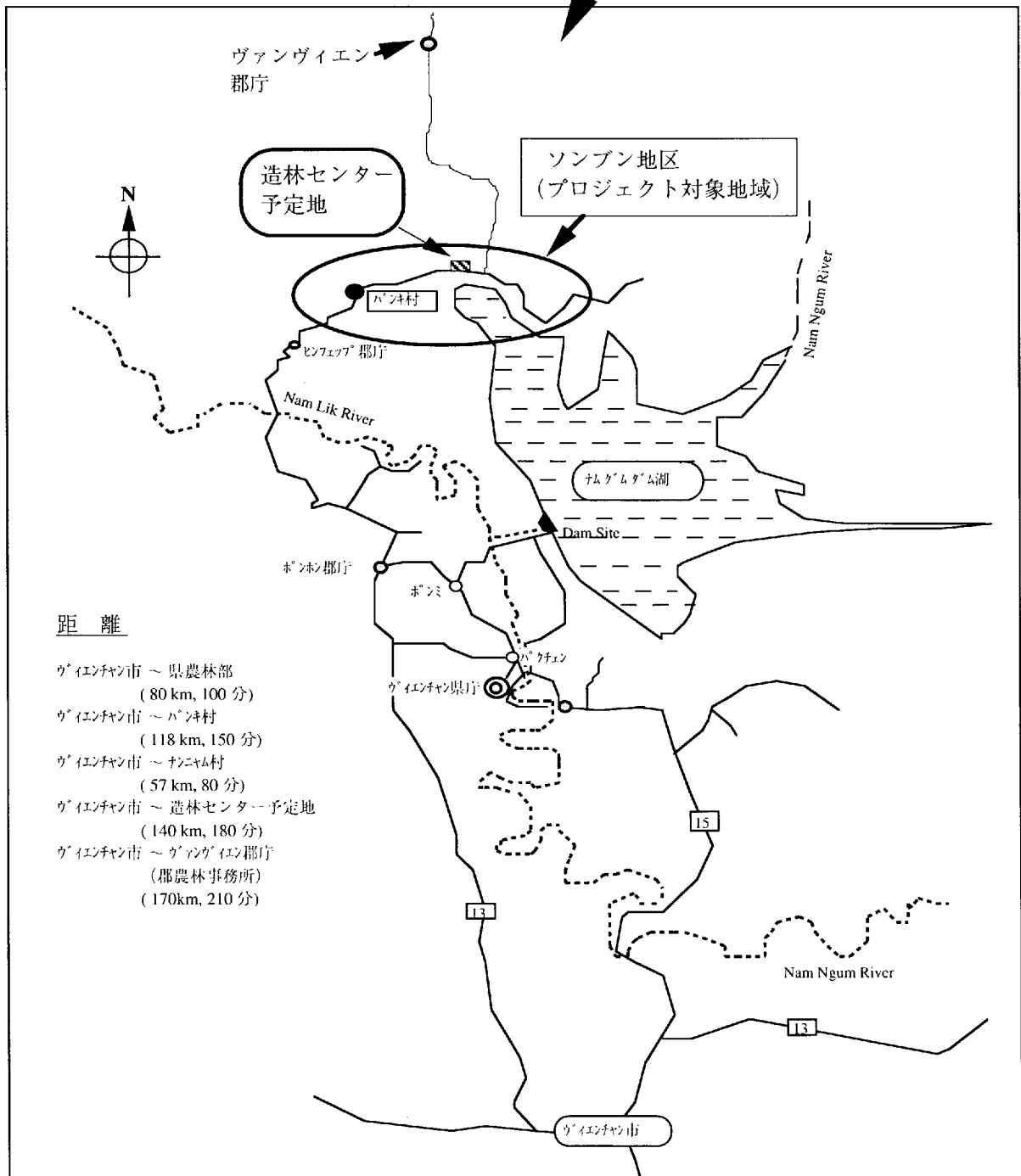
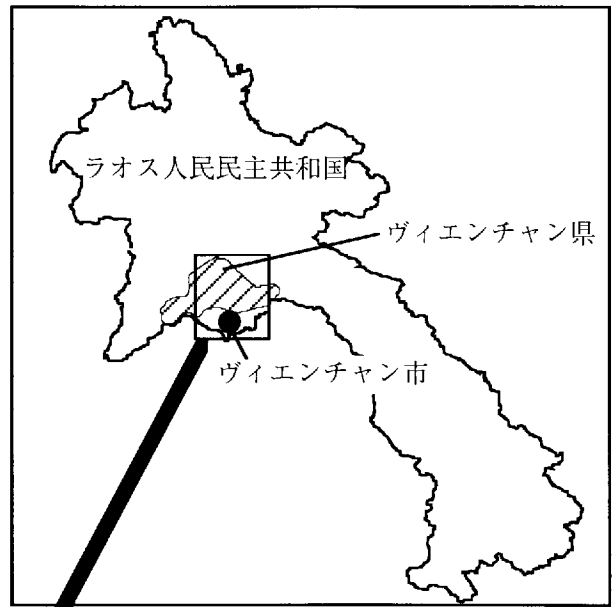
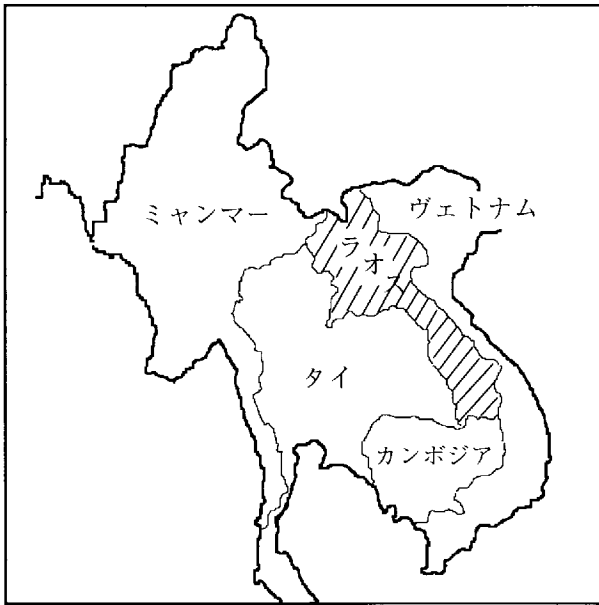
草の根支援展開費が申請された対象地区のナモン地区は、写真のように水田が広がり、ソンブン地区よりも所得が多い。周辺の森林もひどくは破壊されていない。(7の4)ナモン地区の協力についてで説明)



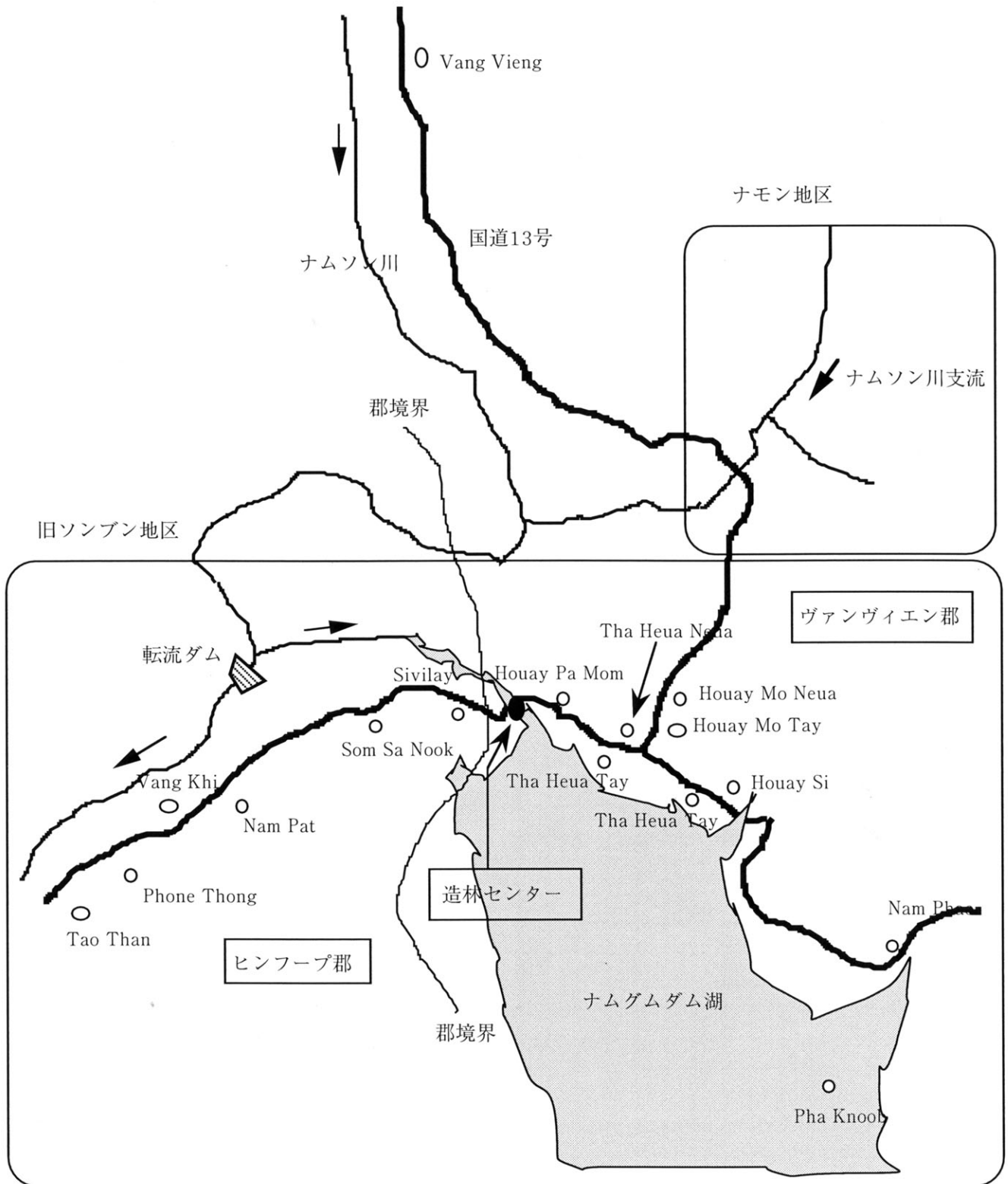
ヴィエンチャン県庁に於いて団長(柴田晋吾課長補佐)がヴィエンチャン県副知事(Mr. Khammeung PHONGTHADY)と会談した。









プロジェクト位置図



プロジェクトサイト周辺拡大図



- | | | | |
|---|------|---|-------|
|  | 道路 |  | 村落 |
|  | 川 |  | 郡境界 |
|  | 川の流れ |  | 村名、建物 |

目 次

序文	
写真	
位置図	
1 運営指導調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2 調査結果の要約	4
3 協力実施の経緯概要	6
3-1 相手国の要請内容	6
3-2 協力実施のプロセス	7
3-3 他の協力事業との関連性	8
4 プロジェクトの運営状況及び実施体制整備状況	8
4-1 実施機関の組織運営体制	8
4-2 建物・施設の状況	8
4-3 予算措置状況	9
4-4 専門家派遣	9
4-5 カウンターパートの配置	9
4-6 機材の管理状況	10
5 プロジェクトの活動進捗状況	10
5-1 森林管理システム	10
5-2 森林管理技術	11
5-3 参加型森林保全	11
6 モニタリング・評価計画書の作成に関する検討	12
7 協力実施にあたっての必要検討事項	13

付属資料

1	モニタリング・評価所計画書（ミニッツ）	17
2	PDM（和文）	35
3	討議議事録（R/D）	36
4	暫定実施計画（T S I）	48
5	実施体制（付属：ラオス側作成実施体制）	50
6	プロジェクト作成資料（プロジェクト活動実績（～99年2月）	52